

社会

社会科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

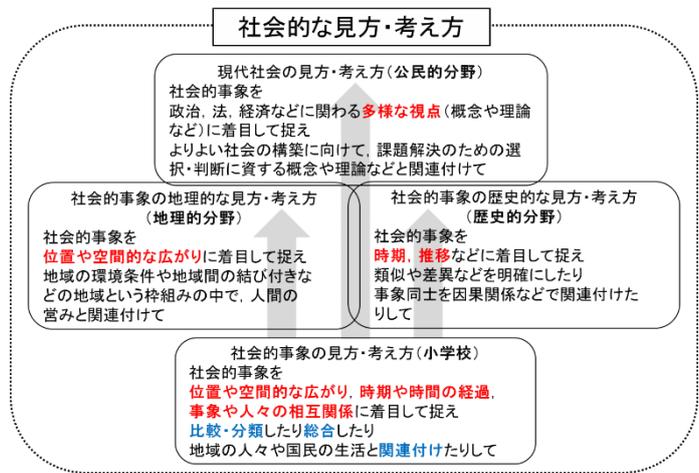
社会科において三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が「課題を追究したり解決したりする活動」の一層の充実が求められます。「課題を追究したり解決したりする活動」とは、「単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習」などを指しており、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協同的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切です。

2 「社会的な見方・考え方」について

中学校社会科における「社会的な見方・考え方」は、地理的分野における「社会的事象の地理的な見方・考え方」、歴史的分野における「社会的事象の歴史的な見方・考え方」、公民的分野における「現代社会の見方・考え方」を総称しての呼称であり、各分野の特質に応じて右の図のように整理されています。

「社会的事象の地理的な見方・考え方」は、「社会的事象を位置や空間的な広がり

に着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて」、**「社会的事象の歴史的な見方・考え方」**は、「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして」、**「現代社会の見方・考え方」**は、「社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて」働かせるものとして示されています。



社会科における学習評価のポイント

1 社会科における評価の観点について

○ 三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点到整理して示されています。

【旧】

評価の観点
社会的事象への関心・意欲・態度
社会的な思考・判断・表現
観察・資料活用の技能
社会的事象についての知識・理解



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

2 評価の観点及びその趣旨

「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際は、まず、学習指導要領に示された教科及び分野の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解することが大切です。その上で、「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認し、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

【改善等通知 別紙4 社会（1）評価の観点及びその趣旨＜中学校 社会＞】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、 <u>国家及び社会の担い手として</u> 、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

3 単元における各観点の評価規準作成の留意事項

中学校社会科においては、原則として学習指導要領上の中項目である「内容のまとまりごと」に作成した評価規準を基に、各分野の項目構成の特色を踏まえた上で、「単元の評価規準」を作成することになります。ただし、「内容のまとまり」の一部を単元としたり、「内容のまとまり」を超えて単元としたりすることも考えられ、各学校で指導計画や評価計画を作成する際に工夫することが求められます。

① 「知識・技能」について

（知識）社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められます。

（技能）「中学校学習指導要領解説社会編」の中で、身に付けるべき技能の例を整理されています。

これらのことを踏まえて、単元の目標及び、その評価規準においても、細かな事象を羅列してその習得のみを求めることのないよう留意することが必要です。

② 「思考・判断・表現」について

各単元において、それぞれの「見方・考え方」を視野に、具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定することが重要です。単元を見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが可能となります。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」について

従前の学習指導要領から一貫して重視されてきた、課題の発見、解決のための「思考力、判断力、表現力等」の育成とも相まって、現実の社会的事象を扱うことのできる社会科ならではの「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要です。この教科の特性を踏まえつつ、この観点については、単元を越えて評価規準を設定するなど、ある程度長い区切りの中で評価することも考えられます。